

第38回まちcomiリサーチ 『通学・通園中の交通安全について』

ドリームエリア株式会社は、無料モバイル連絡網『まちcomiメール』を利用している保護者の方々を対象に、『通学・通園中の交通安全について』のアンケートを実施いたしました。

「事故が起こってからでは遅い」という保護者共通の思いが強い回答を非常に多くいただきました。子どもたちが安心して通学・通園できる環境づくりを是非実現したいものです。

<調査概要>

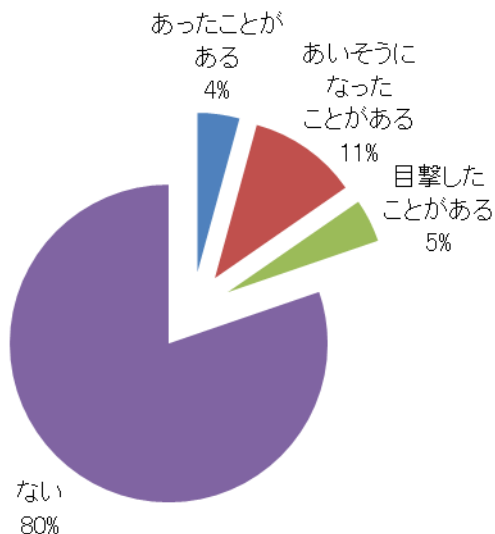
調査期間	2012年8月30日(木)～2012年9月2日(日)
調査方法	モバイルサイト上のアンケートフォームにて回答
調査対象	『まちcomiメール』に登録されている主に子どもの保護者
調査対象数	924,664名
有効回答数	23,118件
寄付金額	今回23,118円 寄付先:NPO法人 チャイルドライン支援センター

<質問項目>

1	お子様の通学・通園中に実際に事故にあった事がありますか？
2	事故にあった場所(事故にあっていない方はヒヤとした場所)があれば、住所や目印など具体的に教えてください。(自由回答)
3	その事故や危険性の内容を教えてください。(自由回答)
4	それに対するの改善や対策の要望を教えてください。(自由回答)
5	交通安全に関する取組としてどのようなことを実施していますか。(複数回答可)
6	学校や行政に対して要望や期待されることはありますか?(自由回答)
7	お子様(本人の場合は自身)の学年を教えてください。(複数回答可)
8	主な通学・通園の手段を教えてください。

質問1: お子様の通学・通園中に実際に事故にあった事がありますか？

— 20%の方が危険な体験をしたり目撃している



「あったことがある」方が4%。1,000人近くの方が実際に事故にあっています。「あいそになったことがある」方を合わせると、15%、3,500人となります。

合計で20%の方が危険な体験をしたり目撃されています。実際にどのような場所や状況で危険があったかを次以降の質問の中でご回答いただきました。

質問2: 事故にあった場所(事故にあっていない方はヒヤとした場所)があれば、住所や目印など具体的に教えてください。(自由回答)

— 多い回答は「交差点」「見通しの悪い個所」「信号・横断歩道のない場所」

最も多い場所としてあがったのは、交差点でした。駐車場、道路に面した商業施設の前など、歩道を横切る場所や、見通しの悪い十字路・カーブという回答も多くいただきました。

また、信号や横断歩道が必要な場所の指摘や、歩道のない道路や狭くガードレールのない歩道も危険な場所として多くあがりました。

質問3: その事故や危険性の内容を教えてください。(自由回答)

— 自動車・自転車の運転マナーに関するものが多い

子どもたちと車や自転車との接触が最も多くあがりました。自転車の横列運転や携帯電話を操作しながらの運転、車の制限速度超過や一時停止の無視など、交通マナーやルールが順守されないことに保護者は恐怖を感じているようです。加えて、子どもたちの、広がって歩いたり、飛び出したりという動きも危険性を広げているようです。

また、植込みや雑草などの放置による死角や、大人の歩きたばこによる子どもの顔の火傷の危険性の指摘もありました。

質問4: それに対する改善や対策の要望を教えてください。(自由回答)

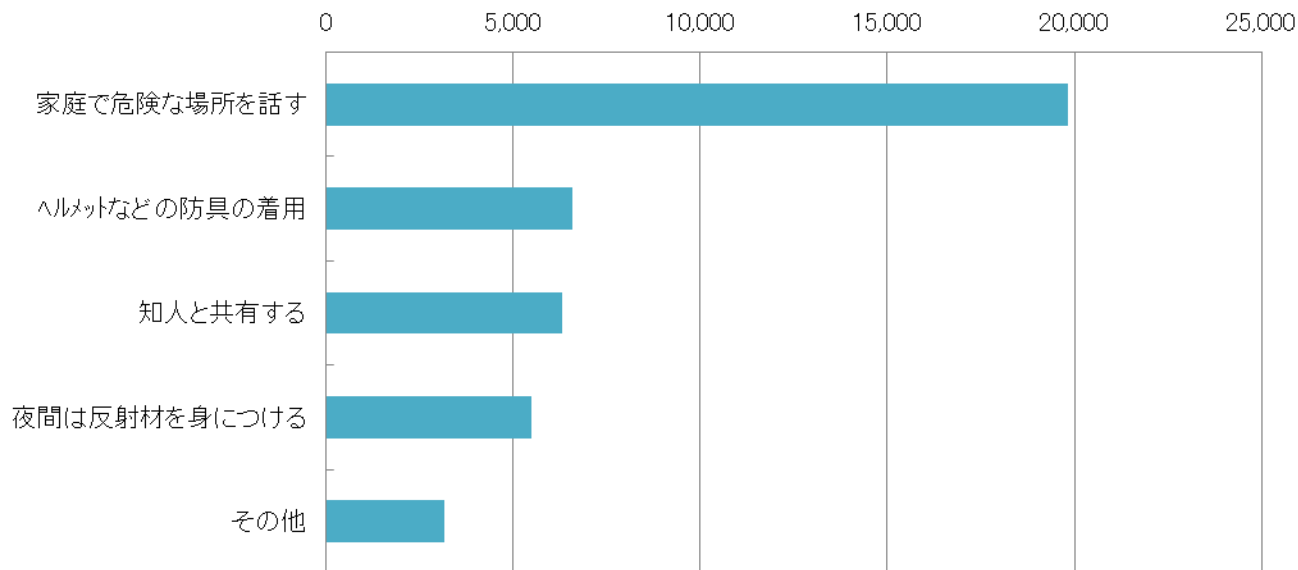
— 行政・警察・学校・家庭・地域の連携が必要という声が多い

行政・警察などが事故が起こる前に、実際に現地で危険を感じて欲しいという意見が非常に多くあがりました。通学路の整備や、通学路でのスピード超過、一時停止・進入禁止の取り締まり強化、歩道の拡張、ガードレールの設置など、子どもを守る施策の実施が切に望まれているようです。自転車の運転マナーの悪さに対して免許制度や、自転車専用道路の整備の提案もありました。

また、まず大人が交通マナーを律して、子どもの模範となるべきとの意見もありました。

質問5: 交通安全に関する取組としてどのようなことを実施していますか。(複数回答可)

— 9割近くの方が「家庭で話す」



約86%の方が、「家庭で危険な場所を話す」と回答。
多くの方が、家族で危険な場所を共有しているようです。

質問6: 学校や行政に対して要望や期待されることはありますか?(自由回答)

多くのご意見をご回答いただきました。 ※以下、一部抜粋したものをご紹介いたします。 回答数: 7,375件

<総評>

学校へは、「通学路に立って欲しい」という声もありますが、全体的に「よくやってくれている」との評価が多くありました。見守り隊の方々への感謝の言葉も多くあり、地域ぐるみでの安全確保の取り組みが広がっているようです。

行政に対しては、「要望をあげているが反映・実施されない」「実際に見て体感して欲しい」という内容が非常に多くありました。事故を未然に防ぐ施策に対して実感する方が少ないようです。警察へは、スピード違反や一時停止、時間規制などの交通規則違反者の取り締まり強化を求める声が多く、更に、信号・横断歩道・スクールゾーンなどの設置を求める声も多くありました。

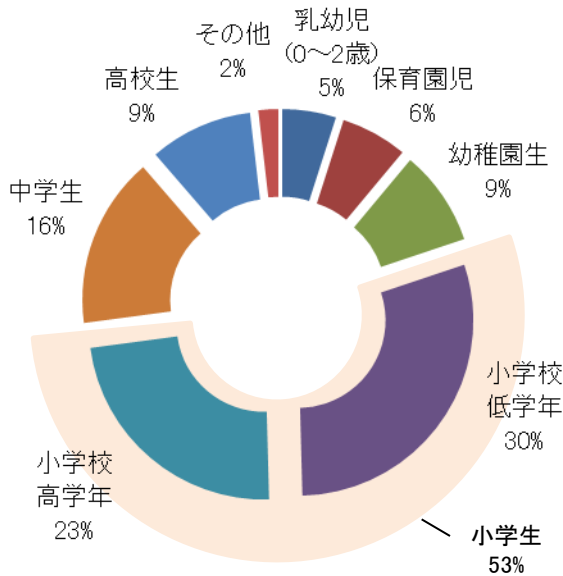
一方、「自分の身を守る教育」を実施されているご家庭も多く、自己防衛も大切な要素になっているようです。

<いただいたご回答>

- ・自転車のマナーが悪い。歩道を並走する。交通教育の必要性を感じる。
- ・多数のドライバーの運転技術の低下も一因としてあると思う。免許証更新時は実技テストを義務化して欲しい。
- ・通学路は歩行者と自転車が通る場所を区別して欲しい。
- ・実際に事故にあった人や、その遺族の話を、子供達の前で被害者が話して聞かせる場をもうける。
- ・学校には定期的に交通安全教室を開催して周知してほしい。
- ・事故箇所の件数や危険度を示したマップがあれば、重要視し周知徹底できる。
- ・子どもに危ないことばかり教えるのではなく、自分が加害者になることもあることを指導すべき。
- ・横断歩道や信号をすみやかに増設してほしい。
- ・国道から離れた道は街灯が少ないので夜に歩く時は怖さを感じます。
- ・冬期間の歩道の除雪
- ・子供達が登下校する時間に視察にきてほしい。一回ではなく、何回も見て危険性を感じて欲しい。
- ・申請はしているが予算がないから無理と言われ、待ちの状態。申請順を公開して欲しい。
- ・出来ない!じゃなく、安全な対策を早急にしてください!子供の安全が、第一です。おきてからでは遅いのです!!
- ・金が無いなら、一般に寄付を募る。何に使われるか訳分からない増税よりはるかに有意義。子供の安全を守るためなら金は集まる。
- ・家庭での話し合いが基本と思うので、注意喚起の便りを望みます。
- ・色んな事から!!どう自分自身を守って行く事がだいじか!!受け身を学ばせる教育も必要かと思えます。
- ・学校側だけではなく、PTA役員や地域の方々のおかげで、子供達が安心、安全に通学できていることに感謝致します。これからも頑張ってくださいね。
- ・昔あった緑のおばさんみたいな地域のひとの協力を得て子供の安全を守る取り組み。
- ・アメリカのようにスクールバスは追い越してはいけないとか、学校付近になるとバンプを造るなど、表示だけではなく何か規則や運転手が体で感じて覚えるような物を設けることが必要のように思う。
- ・インターネットに繋がらないGPS使えて親にしかつながらない携帯を持たせる許可が欲しい。
- ・登校は集団ですが、下校は一人になることが多く心配です。下校に関しても注意を促して欲しいです。
- ・節電で夜間暗い道がふえたので、省電力な街灯を増やして欲しい。
- ・変質者情報が知らされた後、犯人が逮捕されたりしたのか等のその後の情報が知りたいです。
- ・学生服は暗い道では本当に見えにくい。反射する目印などを工夫してもらいたい。

質問7: お子様(本人の場合は自身)の学年を教えてください。(複数回答可)

— 半数以上が小学生の保護者

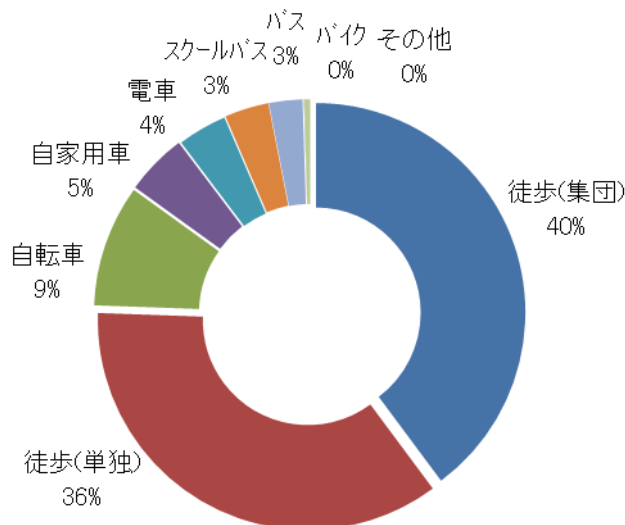


半数以上が小学生の保護者となりました。

有効回答数23,118人に対しお子様の数は37,485人で、ひと家庭当たり約1.6人のお子様がいいらっしゃるようです。

質問8: 主な通学・通園の手段を教えてください。

— 徒歩通学が76%



集団徒歩通学が40%と最も多く、単独徒歩と合わせて76%が徒歩通学となりました。

～まちcomiリサーチ:寄付金報告～

まちcomiリサーチでは、【回答いただいた人数×1円】を各ボランティア団体やNPO法人へ寄付させていただいております。今回の皆様のご協力による寄付額と、現在までの合計額をご報告させていただきます。

第38回リサーチは、[ご回答いただいた人数×1円](#)をまちcomiから「[NPO法人チャイルドライン支援センター](#)」へ寄付します。

今回は、子どもたちが困惑していることや不安な気持ちを受けとめ、自分らしく生きることをサポートするため子どもたちの心の叫びを受け止める活動をされている、「チャイルドライン」へ微力ながらご支援させていただきます。

=[子どもの心に寄り添う電話「チャイルドライン」](#)=

フリーダイヤル 0120-99-7777

(月曜日～土曜日 午後4時～午後9時)

- 今回の寄付額: 23,118円
- 今回までの合計額: 630,080円
- 今回の寄付先: [認定特定非営利活動法人 チャイルドライン支援センター](#)

◆今までに寄付をさせていただいた施設

- ・NPO法人 児童虐待防止全国ネットワーク オレンジリボン
- ・NPO法人 チャイルドライン支援センター
- ・国際援助団体(NGO) セーブ・ザ・チルドレン